

日本語の形容詞の連体形と終止形アクセント の実態調査*

－日本語の形容詞アクセント教育のため－

李 香 蘭**

(e-mail : ran96@wku.ac.kr)

<目次>

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. はじめに | |
| 2. 研究方法と調査対象 | 4.2 3拍語の中高型の形容詞 |
| 2.1 研究方法 | 4.2.1 基本形 |
| 2.2 インフォーマント | 4.2.2 連体形 |
| 2.3 調査対象語 | 4.2.3 終止形 |
| 3. 形容詞アクセントの教育の必要性 | 4.3 4・5拍語の平板型の形容詞 |
| 4. 調査結果 | 4.3.1 基本形 |
| 4.1 3拍語の平板型の形容詞 | 4.3.2 連体形 |
| 4.1.1 基本形 | 4.3.3 終止形 |
| 4.1.2 連体形 | 4.4 4・5拍語の中高型の形容詞 |
| 4.1.3 終止形 | 5. おわりに |

キーワード：形容詞のアクセントの教育(Education of the accent of the adjective), -2型への変化(Changing of accent -2type), 基本形アクセント(The fundamental form accent), 連体形アクセント(The attributive form accent), 終止形アクセント(The end-form accent)

1. はじめに

日本語の形容詞アクセントは拙稿(2004、2005、2014)の結果のように平板型の語が中高型(-2型)への変化が目立っていた。これは終止形に目立つ現象で、連体形ではそうではな

* この論文は2017年度圓光大学校内研究費支援により助成された

** 圓光大学日本語教育学科教授、日本語教育・日本語音声教育専攻

く、平板型を維持する傾向が見られた。2016年5月に18年ぶりに改訂されたNHK編『日本語発音アクセント新辞典』でも「煙い」「眠い」なども終止形では「ケムイ-2」「ネムイ-2」のように中高型で発音されることが、現代では多くなっている。ただし、この変化は「煙いとき」「眠いとき」などの連体形では、あまり進んでいないことやアナウンサーを対象にした調査の結果でも、同様な結果が確認されたと指摘している。こういう傾向は、形容詞はもともと中高型の語が圧倒的に多く、平板型の所属語数は少なく、多いパターンへの移り変わる現象つまり類推現象によるものだと考えられる。果たしてこのような現象が韓国に滞在している日本人にも見られる現象であるのか、ここで検証したい。これは韓国人学習者の日本語のアクセント教育に非常に重要な問題¹⁾である。

2. 研究方法と調査対象

2.1 研究方法

現在韓国に滞在している日本人13名を対象として日本語の形容詞30語(平板型18語、中高型12語)をそれぞれ「基本形(単独の形)」「連体形」「終止形」のアクセントの実態調査を行ない分析・検討した。この際、これらの活用形を用いて、自然な会話体の文を作り、なるべく自然に読んでもらうように試みた。正確なデータを得るため2.3の録音材料3拍語①～⑬と4・5拍語⑭～⑳の文をランダム形式にして3回ずつ録音してもらい2回以上同じアクセントで発音した例を有効な材料として取扱った。

2.2 インフォーマント

調査の対象者は東京出身者が9名、地方出身者が4名で、年齢は40代後半から50代後半までで、韓国に8年から20年間滞在している全員女性の日本人である。T1,T3,L1～L4は主婦で残り7名は高校や大学で日本語の講師を務めている。

<表1> インフォーマント

	T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	L1	L2	L3	L4
出身地	東	東	東	東	東	東	東	東	東	大	青	北	沖

1) 今回、調査対象者13名中7名が日本語を指導している人であるためである。

	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	阪	森	海 道	縄
年齢	53	51	49	57	52	47	50	46	45	49	56	46	54	
韓国 滞在歴	10	20	8	13	11	10	12	9	14	20	15	15	20	

2.3 調査対象語

調査語のうち、平板型はNHK編2016年版を基準にして第1アクセントに平板型を載せているおもな形容詞41語²⁾から18語を抜き出して中高型12語を合わせて計30語を調査の対象語にした。

<3拍語>

平板型：赤い⁰、浅い⁰、厚い⁰、甘い^{0,-2}、重い⁰、固い⁰、軽い⁰、暗い⁰、
遠い⁰、眠い^{0,-2}

中高型(-2)：安い、寒い、暑い、高い、深い、広い

<4・5拍語>

平板型：明るい^{0,-2}、危ない^{0,-2}、怪しい^{0,-2}、おいしい^{0,-2}、悲しい^{0,-2}、
冷たい^{0,-2}、優しい^{0,-2}、難しい^{0,-2}

中高型(-2)：涼しい、短い、暖かい、新しい、忙しい、おもしろい

<3拍語の録音材料>

①あかい(赤い)	あかいくつ。	このくつ、あかい。
②あさい(浅い)	あさいかわ。	このかわ、あさい。
③やすい(安い)	安いものだね。	これは安い。
④さむい(寒い)	さむい日だね。	今日はなかなか寒い。
⑤あつい(厚い)	あつい(厚い)コート。	このコート、あつい(厚い)。
⑥あまい(甘い)	あまいりんご。	このりんご、あまい。
⑦あつい(暑い)	暑い日だね。	今日は暑い。
⑧おもい(重い)	おもいにもつ。	このにもつ、おもい。
⑨かたい(固い)	かたいパン。	このパン、かたい。
⑩たかい(高い)	高い山だね。	この山高い。
⑪かるい(軽い)	かるいかばん。	このかばん、かるい。

2) 赤い、明るい、浅い、厚い、篤い、危ない、甘い、怪しい(妖しい)、荒い(粗い)、いかつい、いけな
い、薄い、薄暗い、おいしい、遅い、おぼつかない、重い、重たい、固い(硬い・堅い)、悲しい、軽
い、黄色い、きつい、気まずい、暗い、煙い、冷たい、つらい、手厚い、手荒い、手軽い、遠い、な
まやさしい、眠い、平たい、分厚い、程遠い、丸い(円い)、難しい、もの足りない、易しい(優しい)

⑫ふかみ(深い)	深い川だね。	この川深い。
⑬くらい(暗い)	くらい部屋。	この部屋はくらい。
⑭ひろい(広い)	広い部屋だね。	この部屋広い。
⑮とおい(遠い)	とおい国。	この国はとおい。
⑯ねむい(眠い)	ねむいところ。	いま、ねむい。

<4・5拍語の録音材料>

①あかるい(明るい)	あかるい性格。	性格があかるい。
②すずしい(涼しい)	涼しいところだね。	ここは涼しい。
③みじかみ(短い)	短いスカートですね。	このスカート、短い。
④あぶない(危ない)	危ない道。	この道は危ない。
⑤あたたかみ(暖かい)	暖かみ部屋ですね。	この部屋、暖かみ。
⑥おいしい(美味しい)	おいしいコーヒー。	このコーヒーはおいしい。
⑦あたらしい(新しい)	新しい辞書ですね。	この辞書、新しい。
⑧かなしい(悲しい)	悲しい日。	今日は悲しい。
⑨いそがしい(忙しい)	忙しい人です。	最近、いそがしい。
⑩やさしい(優しい)	優しいおじさん。	あの人は優しい。
⑪おもしろい(面白い)	おもしろい映画ですね。	この映画、おもしろい。
⑫つめたい(冷たい)	冷たいコーヒー。	このおしぼり冷たい。
⑬むずかしい(難しい)	難しい問題だね。	この問題は難しい。
⑭あやしい(怪しい)	怪しいやつだね。	あの人は怪しい。

3. 形容詞アクセントの教育の必要性

3.1 形容詞アクセントの原則

形容詞アクセントは名詞よりも型の種類は少ない。終止形、連体形では2拍語には頭高型のみ、3拍以上の語には平板型と中高型2種類しかない。なお、中高型は、高さの切れ目に特殊拍がない限り、原則として最後から2拍目まで高い型(-2型)である。各々の活用形によってアクセントは変わる。平板型は「あまい、厚い、暗い、遠い」など約10%しかなく残りの形容詞は「暑い、白い、高い、短い、新しい」など-2型(以下-2に省略する)である。活用形によって次の例のようにアクセントが変わる⁴⁾。

3) 田代晃二(1988)『美しい日本語の発音』創元社、p.40参照。ここでは形容詞300語の内平板型の割合が1割(10%)になると書いている。

4) 田代晃二(1988)とNHK編『日本語発音アクセント辞典』付録、pp.202-207参照。

(濃く示されたところはアクセント核のある拍である。)

平板型(厚い) アツイ アツイコート アツクナル アツクテ アツケレバ
アツカッタ *アツカロウ *アツイカ *アツイデス アツサ

起伏型(暑い) アツイ アツイトコロ アツクナル アツクテ アツケレバ
アツカッタ *アツカロウ *アツイカ *アツイデス アツサ

平板型の形容詞は「厚い」の例に、起伏型の形容詞は「暑い」の例と同一なアクセントとなるが、「酸っぱい、小さい、大きい、多い⁵⁾、深い、低い⁶⁾」などは音韻構造上、別なアクセントになっている。例えば「大きい」は「オーキナヘヤ、オーキクナル、オーキクテ、オーキケレバ、オーキカッタ、オーキカロウ、オーキイカ、オーキイデス、オオキサ」などのようになっている。形容詞アクセントはまったく任意というわけではなく、一般に認められるいる規則がある。本稿では複合語は除外したので単純語の原則⁷⁾だけ述べることにする。

3.2 形容詞アクセントの教育の必要性

前節で述べたように形容詞もアクセントの規則が存在しているのにも関わらず、拙稿(2004、2005、2014)の実態調査の結果のようにかなり変化していることがわかった。これらの変化は世代の差はあるものの、全世代にかけて活用形によってそのバリエーションが大きい。NHK編2016年版には変わったアクセントをかなり反映しているが、あくまでも基本形中心にアクセントを記載されているので、指導する立場では非常に混乱を引き起こす。そこで、日本語の教師や学習者は形容詞アクセントの教育を充分受ける必要がある。

4. 調査結果

日本語のアクセントは全体的に平板化の傾向⁸⁾があると最上(1987)⁹⁾や拙稿をはじめ指摘

5) 多い(オーイ)は音韻構造上基本形が-3と-2が併存している。

6) 深い(フカイ)、低い(ヒクイ)などの-2形容詞はアクセント核が置かれる拍が無声化した母音であるため、-3が「フカク(-2)、ヒクク(-2)」のようにずれる。「〜ク、〜クテ、〜ケレバ、〜カッタ」などの活用形においても同様になる。

7) NHK編(1998)『日本語アクセント辞典』所収の、秋永一枝「共通語のアクセント」 pp.186-187参照例は拙本(2010)pp.79-81及び本稿の例からとった。

している人が多いが、これまでの拙稿(2004、2014)の結果やNHK編2016年版の解説版などには形容詞アクセントは逆に平板型から起伏式(-2)アクセントに変わりつつあると述べている。しかも活用形によって異なるアクセントの様相を見せている。果たして韓国に長く滞在している日本人の発音も同様な結果が出るか非常に興味深い。そこで本稿では現在韓国に長く滞在している日本人を対象者にして、平板型形容詞18語と中大型形容詞16語を用いてそれぞれ基本形・連体形・終止形のアクセントの実態調査を行ない実際の発音のパターンと規則とのずれがどれぐらいあるのか検討してみた。〈表1〉～〈表10〉のアクセントは筆者の判断によるものである。

4.1 3拍語の平板型形容詞

3拍語の平板型形容詞10語¹⁰⁾「赤い、浅い、厚い、甘い0,-2、重い、固い、軽い、暗い、遠い、眠い0,-2」を対象として基本形・連体形・終止形のアクセントがそれぞれどういうふうに発音されているのか調査した。

4.1.1 基本形のアクセント

基本形は終止形のアクセントは大体同じパターンで発音されると考えられるが、基本形は単語レベルで発音するのに対して終止形は文レベル発音してもらうので、若干の差が予想される。〈表1〉のT1～T9東京出身で、L1～L4は地方出身を表す(以下、同じである)。TとLとの差はあまり見られなく、個人差が見られる。現在日本語を教えているT4とT7、L1は標準語のアクセントを維持する傾向が見られるのに対して残りの人は標準語のアクセントからはずれて中大型(-2)で発音されていることが分かる。これは総130例中、平板型(0)44例、中大型(-2)86例(66.2%)で、中大型が平板型を上回っている。特に「眠い」は13名のうち11名が-2で発音された。NHK編2016年版にも第2アクセントで-2がはじめて記載されている¹¹⁾。

8) 拙稿(1996)をはじめ多くの文献でアクセントの平板化を指摘している。

9) 平板化の理由として「発音の容易化・頻繁に使われるいる専門分野の用語」などを挙げている。

10) NHK編2016年版のアクセントを基準として完全な平板型8語「赤い、浅い、厚い、重い、固い、軽い、暗い、遠い」と第1アクセントが平板型で第2アクセントが中大型である2語「甘い0,-2、眠い0,-2」である。

11) 「甘い」も第2アクセントで-2が現われた。

<表1>3拍語の平板型の基本形

	T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	L1	L2	L3	L4
赤い	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0
浅い	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0
厚い	-2	-2	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	-2
甘い	-2	-2	-2	0	-2	-2	-2	-2	-2	0	0	-2	-2
重い	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	-2
固い	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0
軽い	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	-2
暗い	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	-2	0	-2	-2
遠い	0	0	0	0	0	0	0	-3	0	0	0	0	0
眠い	-2	-2	-2	0	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	-2	-2

4.1.2 連体形のアクセント

<表2>は3拍語の平板型の連体形のアクセントを調査した結果である。<表1>の基本形の結果とは対照的で連体形ではL3以外の人にはアクセントが変わらず平板型そのままに発音されたことに注目すべきである。基本形で-2への変化が目立っているのに対して「厚いコート」「重いにもつ」などの連体形では、あまり進んでいないことが確認された。拙稿(2004、2014)にも同様な結果が得られた。アナウンサーを対象にした調査の結果でも、同様な結果が確認されたと指摘している¹²⁾。総130例中、平板型(0)115例(88.5%)、中高校型(-2)15例(11.5%)で調査された。

<表2>3拍語の平板型の連体形

	T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	L1	L2	L3	L4
赤い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-2	0
浅い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-2	0
厚い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-2	0	-2	0
甘い	0	0	0	0	-2	0	0	-2	0	0	0	-2	0
重い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
固い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-2	0
軽い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-2	-2
暗い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-2	-2
遠い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眠い	0	0	0	0	-2	0	0	-2	0	0	0	0	-2

12)NHK編(2016)『日本語発音アクセント新辞典』日本放送出版協会、解説編pp.19-20

4.1.3 終止形のアクセント

「このにもつ重い。」とか「このコート厚い。」のように終止形で使われた場合、果たして単独(基本形)で使われたときとアクセントの差があるのか検討してみた。<表3>のように個人差はあるものの、基本形とはそれほど差が見られなかった。総130例中、平板型(0)43例、中高型(-2)87例(66.9%)で、中高型が平板型を大きく上回っている。「遠い[to:i]」は後ろから2拍目にアクセントの核を置きにくい長音が来ているせいも基本形と同様に平板型を保っていて、1名のみ頭高型(-3)で現われた。

<表3>3拍語の平板型の終止形

	T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	L1	L2	L3	L4
赤い	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0
浅い	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0
厚い	-2	-2	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	-2	-2
甘い	-2	-2	-2	0	-2	-2	-2	-2	-2	0	0	-2	-2
重い	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	-2
固い	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0
軽い	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	-2
暗い	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	-2	0	-2	-2
遠い	0	0	0	0	0	0	0	-3	0	0	0	0	0
眠い	-2	-2	-2	0	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	-2	-2

4.2 3拍語の-2型の形容詞

平板型の形容詞が-2への変化する原因は、形容詞はもともと中高型の語が圧倒的に多く、平板型の所属語数は少なく、多いパターンへの移り変わる現象つまり類推現象によるものだと考えられる。では、形容詞に多い中高型は活用形によって変化が起こるのか検討してみる。<表4><表5><表6>のようにL1とL2の「広い」発音を除けば、中高型形容詞は活用形によってアクセントの変化がそれほど見られなかった。

4.2.1 基本形のアクセント

<表4>3拍語の-2型の基本形

	T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	L1	L2	L3	L4
安い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2

寒い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
暑い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
高い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
深い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
広い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	-2	-2

4.2.2 連体形のアクセント

<表5>3拍語の-2型の連体形

	T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	L1	L2	L3	L4
安い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
寒い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
暑い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
高い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
深い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
広い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	0	0	-2	-2

4.2.3 終止形のアクセント

<表6>3拍語の-2型の終止形

	T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	L1	L2	L3	L4
安い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
寒い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
暑い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
高い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
深い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
広い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	-2	-2

4.3 4・5拍語の平板型の形容詞

4・5拍語の調査対象語である平板型形容詞は8語¹³⁾「明るい0,-2、危ない0,-2、怪しい0,-2、おいしい0,-2、悲しい0,-2、冷たい0,-2、優しい0,-2、難しい0,-2」でNHK編1998年版には「危ない、怪しい、おいしい、難しい」4語のみ揺れのある型0,-2で「明るい、悲しい、冷たい、優しい」4語は完全な平板型であった。3拍語¹⁴⁾より4・5拍語の方が-2への変化が進

13)NHK編2016年版基準で第1アクセントが平板型である語である。

14)NHK編2016年版には「赤い0、浅い0、厚い0、甘い0,-2、重い0、固い0、軽い0、暗い0、遠い0、

んでいると言えよう。拙稿(2014)にも同様な結果(終止形の2への変化は3拍語53.3%,4拍以上の語76.3%)が現われた。果たして韓国に滞在している日本人の4・5拍語の発音も同様な結果が出るか非常に興味深い。

4.3.1 基本形のアクセント

4・5拍語の平板型8語を単独に13名に発音してもらった結果を<表7>に表した。総104例中、平板型(0)が18例、中高型(-2)が86例(82.7%)が検討された。この結果は日本に滞在している日本人の発音の結果より-2への変化がやや上回る。3拍語と同様にT4、T7、L1は第1アクセントの0を維持する傾向が見られるのに対して残りの人は第2アクセントの-2アクセントで発音されていることが分かる。「難しい(ムズカシイ)」は13名全員-2アクセントで発音されていることが特徴である。これは拍数が長い語ほど途中で切れ目を置きたい気持が強く働いている証拠であろう。このことについては拙稿(2014)で3・4・5拍語の順で-2の傾向が高く現われた。6名は8語全部-2で発音されている。

<表7> 4・5拍語の平板型の基本形

	T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	L1	L2	L3	L4
明るい0	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	0	-2	0	-2	-2	-2
危ない0-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	0	-2	-2	-2
怪しい0-2	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	-2	-2	-2	-2
おいしい0-2	-2	-2	-2	0	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
悲しい0	-2	0	-2	0	0	-2	0	-2	-2	-2	-2	-2	-2
冷たい0	-2	-2	-2	-2	-2	0	0	-2	-2	0	-2	-2	-2
優しい0	-2	-2	-2	0	-2	0	0	-2	-2	-2	-2	-2	-2
難しい0-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2

4.3.2 連体形のアクセント

4・5拍語の平板型の連体形(「明るい性格」「おいしいコーヒー」など)の調査結果を<表8>に示した。基本形と対照的に個人差はあるものの、平板型77例(74.0%)が-2(27例26.0%)を大きく上回っている。3拍語の連体形の-2の発音11.5%に比べても倍以上の割合である。NHK編1998年版に第2アクセントが-2である語ほど-2が多く現われた。特に「難しい」は連体形であるのにも関わらず、9名が-2で発音されていた。T3は基本形で18語全部

眠い0,-2」10語のうち、2語(甘い、眠い)のみ-2への変化があった。

-2で発音されているのに対して連体形では全部平板型で発音されていることに注目したい。これから連体形でも平板型は段々なくなるのではないかと予想される。

<表8> 4・5拍語の平板型の連体形

	T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	L1	L2	L3	L4
明るい 0	-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-2	0	0
危ない 0-2	-2	0	0	0	-2	0	0	-2	0	0	0	0	0
怪しい 0-2	-2	-2	0	0	0	0	0	0	-2	-2	0	0	0
おいしい 0-2	0	-2	0	0	0	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	0
悲しい 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
冷たい 0	0	0	0	0	0	0	0	-2	-2	0	0	0	0
優しい 0	0	-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
難しい 0-2	-2	-2	0	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	0	-2	-2

4.3.3 終止形のアクセント

「この道は危ない。」「あの人は優しい。」の例のように終止形では総104例中、平板型(0)が14例(13.5%)、中高型(-2)が90例(86.5%)が調査されて、基本形とはそれほどの差はなかったが、T8とL1が終止形では平板型で発音せず、全部-2で発音されたため、結果に若干の差を見せた。拙稿(2014)の終止形の結果とは多少差があるものの、-2への変化は両方とも目立っているのが明らかになった。最新版の辞書に記載されているアクセントとのずれが多少あると言えよう。

<表9> 4・5拍語の平板型の終止形

	T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	L1	L2	L3	L4
明るい 0	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	-2	-2	-2	-2
危ない 0-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
怪しい 0-2	-2	-2	-2	0	-2	-2	0	-2	-2	-2	-2	-2	-2
おいしい 0-2	-2	-2	-2	0	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
悲しい 0	-2	0	-2	0	0	-2	0	-2	-2	-2	-2	-2	-2
冷たい 0	-2	-2	-2	-2	-2	0	0	-2	-2	-2	-2	-2	-2
優しい 0	-2	-2	-2	0	-2	0	0	-2	-2	-2	-2	-2	-2
難しい 0-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2

4.4 4・5拍語の-2型の形容詞

4・5拍語の-2の形容詞は基本形・連体形・終止形に全く同様な結果が出て<表10>ま

とめて示した。3拍語は活用形によって若干の差を見せたが、4・5拍語では変化が全然なかった。形容詞は中高型の語が圧倒的に多いため、少ない平板型の所属語は-2へ変化しつつあるが、中高型の所属語は変化せず-2を維持するパターンとなっている。中高型の語が平板型へ変化した語は1例も調査されなかった。これは日本語の全体的な変化のパターンとは逆らっていることが言えよう。

<表10> 4・5拍語の-2型の基本形・連体形・終止形

	T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	L1	L2	L3	L4
涼しい	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
短い	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
暖かい	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
新しい	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
忙しい	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2
おもしろい	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-2

5. おわりに

韓国の日本語学習者の形容詞アクセントの教育のために、現在韓国に滞在している日本人13名(東京出身9名、地方出身4名)を対象として日本語の形容詞30語(平板型18語、中高型12語)をそれぞれ「基本形(単独の形)」「連体形」「終止形」のアクセントの実態調査を行ない分析・検討した。この結果をまとめると次のようである。

第1は、東京と地方出身との差はあまり見られなく、個人差があるだけで、日本語を教えている人ほど標準語のアクセントを維持する傾向が見られた。日本にいる日本人と韓国に長く滞在している日本人の発音では若干の差があるものの、大きな変化の流れの面では同様な結果が出た。

第2は、平板型・中高型とも3拍語より4・5拍語にその変化の割合が高く調査された。つまり拍数の長い語ほど-2への変化が多いと言える。

第3は、3拍語の平板型の基本形においては、総130例中、平板型44例、中高型(-2)86例(66.2%、終止形66.9%)で、中高型が平板型を上回っている。これに対して連体形は総130例中、平板型115例(88.5%)、中高型(-2)15例(11.5%)で調査された。-2への変化は「基本形」と「終止形」において目立つ現象で、連体形では本来持っているアクセントを維持する

傾向が強い。

第4は、4・5拍語の平板型の基本形は総104例中、平板型(0)が18例、中高型(-2)が86例(82.7%、終止形86.5%)が調査され、-2への変化が3拍語より目立つ。連体形では平板型77例(74.0%)が-2(27例26.0%)を大きく上回っている。

第5は、3拍語の-2形容詞は活用形によって若干の差を見せたが、4・5拍語の-2の形容詞は基本形・連体形・終止形に全く同様な結果が出て4・5拍語では変化が全然なかった。

以上の結果から考えると、今後韓国人の日本語学習者に日本語の形容詞アクセントを指導する際、このような傾向を反映して教育しなければならないだろう。

[参考文献]

- 相沢正夫(1984)「アクセントの変化の要因」『日本語学』明治書院
 (1991)「アクセントと日本語教育—機能アクセント論の試み—」『日本語学2月号』明治書院
 pp.124-131.
- 秋永一枝(1998)「共通語のアクセント」NHK編『日本語発音アクセント辞典』日本放送出版協会、
 pp.70-116.
- 井上史雄(1992)「業界用語のアクセント」『言語』21(2), pp.34-39.
- 小林めぐみ(2003)「東京語における形容詞アクセントの変化とその要因」『音声研究 第7巻第2号』
 pp.101-113.
- 佐藤亮一(1990)「現代東京語のアクセント—年齢差および辞典との差を中心に—」『国語論究2 文
 字音韻の研究』明治書院, pp.204-239.
- 杉藤美代子(1983)「アクセントの「ゆれ」」『日本語学』8(2), pp.15-26.
- 放送研究部(1987)「放送のことば—平らになる外来語のアクセント—」『放送研究と調査』37号pp.36-41.
- 馬瀬良雄・佐藤亮一(1989)「東京語アクセントの多様性」『講座日本語と日本語教育(日本語の音声と音
 韻(上))』明治書院, pp.206-232.
- 最上勝也(1984)「変わりつつある共通語のアクセント(1)オーディオは平らにサスペンスは前へ」
 『NHK放送研究と調査』pp.72-77.
- 李香蘭(1996)「平板化する日本語のアクセント—外来語を中心に—」『日本文化学報』第2輯, 韓国日本
 文化学会, pp.51-69.
- _____(2004)「東京語における形容詞アクセントの変化」『日本語学』23輯, 韓国日本語学会,
 pp.109-125.
- _____(2005)「日本語における形容詞アクセントの実態調査—地方出身者の発音を中心に—」『日本文
 化学報』24輯, 韓国日本文化学会, pp.75-90.
- _____(2006)「韓国人の日本語学習者における形容詞アクセントの実態調査」『日本文化学報』28輯,
 韓国日本文化学会, pp.63-75.
- _____(2014)「日本語の形容詞アクセント変化の実態調査—韓国人の日本語学習者のアクセント教育の
 ため—」『日本語教育研究』28輯, 韓国日語教育学会, pp.115-127.

<参考辞書>

- 日本放送協会編(1951)『日本語アクセント辞典』日本放送出版協会, pp.1-803.
日本放送協会編(1966)『日本語発音アクセント辞典』日本放送出版協会, pp.1-1096.
NHK編(1985)『日本語発音アクセント辞典』日本放送出版協会, pp.1-990.
NHK編(1998)『日本語発音アクセント辞典』日本放送出版協会, pp.1-231.
NHK編(2016)『日本語発音アクセント新辞典』日本放送出版協会, pp.1-1764.
秋永一枝(2001)『新明解日本語アクセント辞典』三省堂, pp.1-1764.
金田一京助他(2011年版)『新選国語辞典』(第九版)小学館, pp.1-1037.
山田 忠雄他(2012年版)『新明解国語辞典』(第七版)三省堂, pp.1-1728.

논문 투고 일자 : 2018. 12. 30.

논문 심사 일자 : 2019. 01. 31.

게재 확정 일자 : 2019. 02. 01.

 < 要 旨 >

日本語の形容詞の連体形と終止形アクセントの実態調査

- 日本語の形容詞アクセント教育のため -

李香蘭

韓国の日本語学習者の形容詞アクセントの教育のために、現在韓国に滞在している日本人13名を対象として日本語の形容詞30語(平板型18語、中高型12語)をそれぞれ「基本形(単独の形)」「連体形」「終止形」のアクセントの実態調査を行ない分析・検討した。この結果は以下のとおりである。

第1は、東京出身者と地方出身者との差はあまり見られなく、個人差があるだけで、日本語を教えている人ほど標準語のアクセントを維持する傾向が見られた。日本にいる日本人と韓国に長く滞在している日本人の発音では若干の差があるものの、大きな変化の流れの面では同様な結果が出た。

第2は、平板型・中高型とも3拍語より4・5拍語にその変化の割合が高くあらわれた。つまり拍数の長い語ほど-2への変化が著しいと言える。

第3は、平板型の基本形と終止形においては、中高型が平板型を大きく上回っている。これと対照的に連体形は平板型が中高型を大きく上回っている。-2への変化は「基本形」と「終止形」において目立つ現象で、連体形では本来持っているアクセントを維持する傾向が強い。

第4は、-2形容詞は活用形が違ってもほとんど変わらず、アクセントの変化は見られなかった。

Attributive form of a Japanese adjective and actual condition survey of the end-form accent

- For Japanese adjective accent education -

Lee, Hyang-Ran

An actual condition survey of the accent of "fundamental form (the independent shape)" "attributive form" "end-form" was performed respectively, and 30 Japanese adjectives (12 nakadaka-types, 18 heiban-types) were analyzed and considered targeted for 13 Japanese staying in Korea at present for education of the adjective accent of the Korean Japanese learner. When this result is gathered, it seems to be the next. 1st, for, the difference between Tokyo and from the area wasn't seen so much, and the person who just has the individual differences and is teaching Japanese could see the tendency which maintains the accent of the standard language. The similar result was in in a face of the flow of a partial but big change which is slightly by pronunciation of the Japanese who is in Japan and the Japanese staying in Korea lengthily. 2nd, for, the heiban-type and the nakadaka-type had a percentage higher than 3 hakugo of the change in 4 and 5 hakugo and were investigated. In other words, it can be said that there are a lot of changes to-2 like a long word of hakusuu. 3rd, for, since putting it in the fundamental form and the end-form of the heiban-type, the nakadaka-type exceeds the heiban-type big. The heiban-type exceeds the nakadaka-type big for an attributive form contrastively with this. 4th, for, almost no-2 adjective changed with inflection, and a change in the accent wasn't seen.